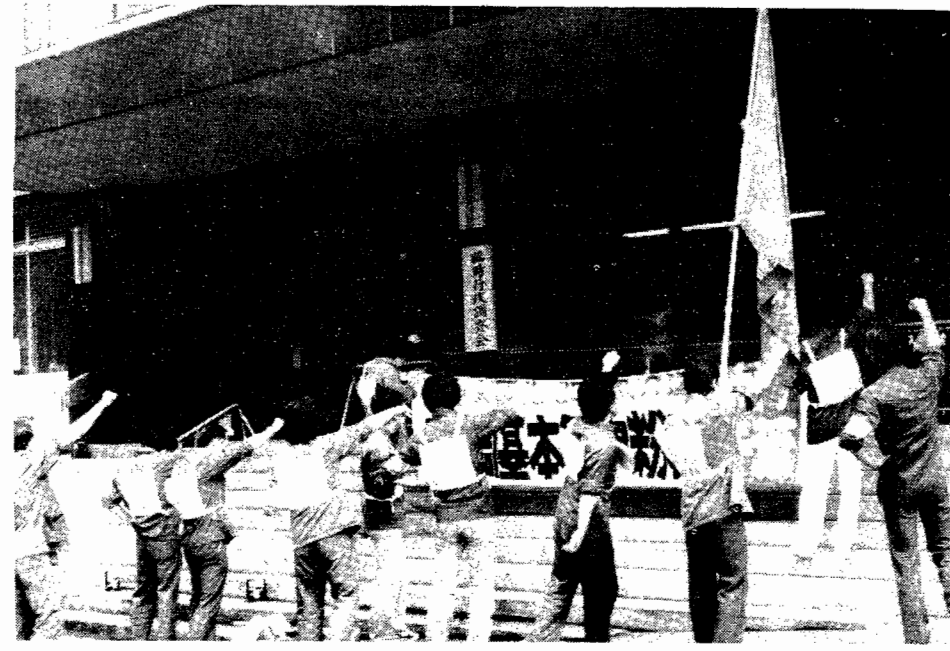


三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

臨調会館へ抗議行動も展開

7 臨調基本答申 30 白紙撤回要求

七月三〇日わが動労千葉は、全支部で臨調基本答申粉碎にむけた抗議職場集会を開催した。同時に東京・永田町の臨調会館ビルへ断固たる抗議行動を行った。全支部の怒りの抗議集会と同時に行われた動労千葉代表団による臨調会館への抗議行動は、怒りの抗議文をつきつけると同時に代表団全員による臨調会館ビル全体にひびきたる怒りのシュプレヒコールを行い、抗議闘争を貫徹した。



「40万国鉄労働者の実力で、基本答申を粉碎するぞ!」—臨調会館玄関前で抗議の横断幕かけ、30分間にわたる怒りのシュプレヒコールを叩きつけるわが抗議団。

臨調基本答申は、全労働者・人民の怒りの中で強行された。とりわけ、第四部会報告を先頭に、国鉄労働運動全面解体にむけた本格的な攻撃として出されたのである。日本帝国主義の崩壊の危機の延命のためのみ軍事大国化・改憲・侵略戦争へうって出るその国内においての体制作りにより日本労働運動最大の拠点である官公労働運動II国鉄労働運動解体の具体的攻撃にうって出てきたのである。

第一に基本答申の最大の攻撃は、ついにその具体的目的を明白にし、まずなによりも支配階級の政治的、経済的破壊の一切の責任を国鉄「再建」に転嫁してきていることである。国鉄労働者・運動に一切責任転嫁してきていることである。

国鉄を食いものにしてきた支配階級は、政府・自民党・財界・国鉄当局官僚であったのだ。にもかかわらず、国鉄労働者のみに「ヤミ」だ「カラ」だ「ブラ動」だとし、国鉄「赤字」の原因が国鉄労働者であり、悪者だとしている。われわれは、そのための大合理化攻撃を断じて許すことは出来ない。

われわれは、座して死ぬことは出来ない。基本答申のゆきつく先、軍事大国化・改憲・侵略戦争に断固対決して闘わなくてはならない。

第二に支配階級が全体重をかけて攻撃をかけてきたそのとき、誰が敵で、誰が味方が鮮明になったことである。

政府・自民党・国鉄当局の攻撃は、国鉄労働運動解体を最大の目的とし、その突破口が実は、ブルトレ問題にあったことは、この間指摘したところである。この攻撃に最大の裏切り・屈服を行ったのは、動労「本部」革マルである。しかも労働組合の存立理念である基盤そのものを破壊する攻撃としてしかけていることを充分に承知しつつ、裏切り・屈服を行ったのである。

あろうことかまたまた国労中央に対する全面的誹謗中傷をもって、おのれの裏切りと屈服を隠べいしよとする「本部」革マルを徹底的に断罪しなくてはならない。政府・自民党三塚、加藤(六)に土下座し全面的屈服と自己保身を哀願するまでにいたった腐敗分子・動労「本部」革マル。より鮮明に、政府・自民党・臨調答申の最先兵に純化した動労「本部」革マル分子を粉碎・一掃することなしにわれわれの勝利はない。

すべての皆さん、全国の闘う仲間の皆さん、いよいよ本格的な闘いに突入しました。敵の攻撃の具体化をしっかりと見すえ、この間の闘いで奮闘した一切の力を出しきって、共闘をより一層強化・拡大し闘い抜こう。



臨調攻撃を真正面からうけてた、三里塚—国鉄での80年代中期階級決戦の大爆発をからとる決意をこめて、動労千葉本部事務所に新しい大看板を設置した。(8月2日)

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!